なぜ人を育てるのがうまいのか

おかみさん学

相撲界、料亭、旅館を切り盛りする〝おかみさん〟とはどの様な女性たちなのだろう……？　早稲田大学で日本語教育の研究に携わる著者が丹念に書き下ろしたユニークな人間学・社会学の書！

宮崎里司　著

〈著者略歴〉

愛知県生まれ。早稲田大学卒業後、モナシュ大学日本研究科（オーストラリア）を経て、早稲田大学日本語研究教育センター専任講師、その後、同センター助教授を経て、現在、大学院日本語教育研究科教授。オーストラリア研究所所長。墨田区との産学官連携事業の一環として、墨田区の小学校跡地に研究室を構え「国際交流と多文化共生社会」プロジェクトを展開中。外国人力士の日本語習得、異文化接触に伴うアカデミック・スタイルの不適応問題や日本語学習者の脳の言語処理過程などを、主な研究テーマとしている。著書に『言語研究の方法』（共著、くろしお出版）、『接触場面と日本語教育』（共著、明治書院）、『外国人力士はなぜ日本語がうまいのか』（日本語学研究所）などがある。

本書の内容

四六判・並製・256ページ
定価1,365円（税込）PHP研究所

第1章　強い力士を育てることで周りに恩返し

高砂部屋師匠夫人
長岡　恵

感謝できる機会は大切にする
立って寝るしかない
力のある紳士だから力士
力士としてのしつけの大切さ
青鬼と赤鬼・朝青龍と朝赤龍
おかみさんの後輩指導　ほか

第2章　角界最小の部屋を盛り立てる

荒汐部屋師匠夫人
鈴木ゆか

客室乗務員から伝統社会へ
出会った日にプロポーズ
土俵にはすべてが詰まっている
おかみさんの観察眼
荒汐部屋の弟子たち
わが子に思うこと　ほか

第3章　向島花柳界の女将と芸妓衆

料亭『花の里』四代目女将
鎗田重子

料亭『入舟』三代目若女将
大沼真由子

向島と隅田川界隈
向島花街の今昔
再活性化のための意識改革
お座敷で光るプロの目
花代と気配り
『花の里』の名物芸者・小きぬさん
岡惚れ気質で気っ風もさっぱり
気配りとは勉強と訓練
色ではなく芸を売る
『入舟』女将の優しさと厳しさ
粋な下町情緒復権のために　ほか

第4章　日本人以上に日本の〝おもてなし〟を考える

銀山温泉旅館『藤屋』女将
藤　ジニー

和服姿が板についた外国人女将
同居、嫁姑、そして家出
日米のもてなしの違い
茶道・華道、そして和服
言葉と気持ちを合わせるもてなし術
夫との二人三脚　ほか

第5章　おかみさんが人から慕われる九つの資質

1 予備知識もない社会への果敢なる挑戦
2 ほかの仕事と比べ、四六時中休まる暇がなく、損得抜きの滅私奉公
3 仕事をするうえで、手本とすべき熟達者に囲まれている
4 周りに育ててくれる応援団がいる
5 気配り、もてなし、心意気を兼ね備えている
6 夫との二人三脚で、難局に立ち向かう
7 プロ意識に徹し、しつけ、しつけられる大切さを自覚している
8 環境は厳しく、順風満帆ではないが、伝統を継承しながら、粉骨砕身している
9 明るく前向きである

気配り　もてなし
心意気
の真髄、ここにあり！